

■ 5 疾病・5 事業及び在宅医療に係る医療連携体制の構築（検討資料）【認知症の医療体制】

現状	課題	施策
<p>【現 状】</p> <p>（認知症の現状）</p> <p>○ 認知症高齢者数は、厚生労働省の推計によると、全国では平成 24 年時点で 462 万人であるとされ、平成 37 年には 700 万人前後になると見込まれています（「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業による速報値））。</p> <p>○ 本県の介護保険の第 1 号被保険者（65 歳以上）のうち「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の者は、平成 24 年 3 月には約 3 万 8 千人でしたが、平成 29 年 3 月には約 4 万 6 千人となっており、年々増加する傾向にあります（図表 4-18）。</p> <p>○ また、第 2 号被保険者（40 歳以上 65 歳未満の医療保険加入者）うちⅡ以上の者は、平成 21 年 3 月の 636 人から平成 24 年 3 月には 789 人と概ね増加傾向にありましたが、その後は 700 人台で推移し、平成 29 年 3 月には 683 人となっています（図表 4-19）。</p> <p>（認知症の予防と早期対応）</p> <p>○ 認知症の予防を図るため、市町村の介護予防事業等において、認知症予防体操などの認知症予防・支援プログラムの実施や正しい知識の普及・啓発を行っています。</p> <p>○ また、地域包括支援センターにおいては、高齢者の生活機能、身体機能等について、「基本チェックリスト」の活用などにより身体状況の変化の早期発見に努めています。</p> <p>○ 主治医（かかりつけ医）の認知症に関する知識や診断技術の向上などを目的として、平成 18 年度からかかりつけ医認知症対応力向上研修を開催しています（平成 29 年 3 月現在、修了者 1,053 人）（指標 F-2）。</p> <p>○ 歯科医師や薬剤師の認知症に関する知識の充実や、かかりつけ医等と連携した早期対応力の向上等を目的として、平成 28 年度から歯科医師及び薬剤師の認知症対応力向上研修を開催しています（平成 29 年 3 月現在、修了者 歯科医師 116 人、薬剤師 188 人）</p> <p>○ かかりつけ医の認知症診断等に関する助言を行うなど、認知症に係る地域医療体制の中核的な役割を担う医師として、平成 17 年度から認知症</p>	<p>【課 題】</p> <p>（認知症の予防と早期対応）</p> <p>○ 認知症の予防や増悪を防止するため、市町村における介護予防の取組の一環として、認知症予防・支援プログラムの普及とその実践を促進する必要があります。</p> <p>○ もの忘れなどの初期段階での気づきや早い段階での相談支援機関への橋渡しなどの対応の遅れが認知症の悪化につながることから、気づきから相談支援機関への円滑な橋渡しなど、早期対応の必要性の周知を図る必要があります。</p> <p>○ 相談支援機関やかかりつけ医、歯科医師、薬剤師は、認知症が疑われる場合は、早い段階で認知症疾患医療センターなど鑑別診断を行える医療機関への受診につなげるなど、早期診断に結びつける必要があります。</p> <p>○ 認知症サポート医が中心となり、かかりつけ医や各地域の医師会、地域包括支援センター等の関係機関が連携し、認知症疾患医療センター等の鑑別診断を行える医療機関など必要な情報提供に努める必要があります。</p>	<p>【施 策】</p> <p>〈施策の方向性〉</p> <p>○ 認知症になっても、本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、認知症に対する正しい知識と理解に向けた啓発を図るとともに、認知症疾患医療センターを中核とした安心の認知症医療体制の構築と、必要な介護サービス基盤の整備を推進します。</p> <p>〈主な取組〉</p> <p>（認知症の予防と早期対応）</p> <p>○ 市町村では、介護予防の取組の一環として、認知症予防・支援プログラムの普及とその実践に取り組みます。</p> <p>○ 気づきから相談支援機関への橋渡しなど、早期対応の必要性について、地域包括支援センターを中心に住民への普及・啓発を図ります。</p> <p>○ 市町村では、専門医や医療・介護の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問して支援する認知症初期集中支援チームを設置し、早期診断・早期対応に向けた、包括的・集中的支援体制を構築しています。</p> <p>○ 認知症が疑われる段階での鑑別診断や適切な医療に結びつけるため、かかりつけ医、歯科医師、薬剤師等の認知症対応力向上研修を継続実施し、認知症の初期対応ができる医療従事者の拡充を図ります。</p> <p>○ 認知症サポート医やかかりつけ医、薬剤師、看護師等医療従事者、介護従事者などの参画による医療と介護の多職種が協働した地域ケア会議を普及するとともに、鑑別診断を行える医療機関など必要な情報の提供や認知症の人への支援の課題等、必要な情報の共有を図ります。</p>

現状	課題	施策
<p>サポート医の養成を進めています（平成 29 年 3 月現在、修了者 103 人）。 二次保健医療圏別の養成数は、盛岡では 50 人となっている一方、2 人のみの圏域もあります（指標 F-4）。</p> <p>○ また、盛岡市医師会では、認知症に関する研修を修了した医師が「もの忘れ相談医」として様々な相談に応じる独自の取組を行っています（平成 29 年 9 月現在、57 人）。</p> <p>（認知症の医療）</p> <p>○ 本県では、認知症の専門的医療の提供体制を強化するため、平成 21 年 4 月 1 日に岩手医科大学附属病院を岩手県認知症疾患医療センターとして指定（平成 22 年 4 月 1 日に「基幹型」に移行）し、全県からの専門医療相談・専門診断に対応しているほか、認知症に関する情報発信を行っています。</p> <p>○ また、地域において認知症の早期診断や適切な医療の提供を図るため、平成 27 年 1 月に宮古山口病院を、平成 28 年 4 月に国立病院機構花巻病院及び北リアス病院を、それぞれ地域型認知症疾患医療センターに指定し、地域において専門医療相談・専門診断及び認知症医療に関する情報発信、認知症に関する普及啓発を行っています。</p> <p>○ 県内の認知症疾患医療センターにおける認知症疾患に係る平成 28 年度の外来件数は 5,968 件で、うち鑑別診断は 371 件、電話・面接による相談件数は 1,602 件となっています（図表 4-20）。</p> <p>○ 県内の医療機関のうち、認知症の診療が可能であると回答した医療機関は 61 病院、267 診療所となっています（指標 F-7,8）。</p> <p>○ 急性期病院等に入院した患者が認知症の場合であっても適切な対応がとれるよう、一般病院勤務の医療従事者や看護職員を対象とした認知症対応力向上研修を開催しています（平成 29 年 3 月現在、修了者 医療従事者 437 人 看護職員 80 人）。</p> <p>（地域での生活を支える介護サービスの構築）</p> <p>○ 認知症介護サービスの基盤として、認知症対応型共同生活介護事業所（認知症グループホーム）、小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型通所介護事業所が設置されています（図表 4-21）。</p>	<p>（認知症の医療）</p> <p>○ 認知症の人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、県内のどこに住んでいても鑑別診断や適切な医療を受けられる体制を構築する必要があります。</p> <p>○ 認知症のケアは、とりわけ医療と介護の連携体制の構築が必要なことから、その強化に努める必要があります。</p> <p>○ 口腔状態の悪化が生活の質の低下や認知症の症状の悪化につながることから、適切な口腔ケアの推進に努める必要があります。</p> <p>（地域での生活を支える介護サービスの構築）</p> <p>○ 認知症の人が地域で必要な介護サービスを受けながら安心して生活することができるよう、介護保険事業計画に基づくサービス基盤の整備を着実に進める必要があります。</p>	<p>（認知症医療体制の充実）</p> <p>○ 県内のどこに住んでいても、軽度認知障害（MC I）の段階からの診断、治療を含むサポートや、認知症の鑑別診断を踏まえた適切な医療を受けられるよう、岩手県認知症疾患医療センターによる各地域のかかりつけ医をはじめとする関係医療機関や地域包括支援センターへのバックアップ体制の充実を図ります。また、地域において認知症の人への支援体制構築の役割を担う認知症サポート医が各市町村ごとに配置されるよう支援します。</p> <p>○ 国が作成する「標準的な認知症ケアパス」（状態に応じた適切な医療・介護などのサービス提供の流れ）を踏まえ、各地域の実情に応じた医療と介護の連携体制の構築を図ります。</p> <p>○ 居宅、入院あるいは施設入所のいずれの場合でも、適切な口腔ケアが行われ、認知症の悪化を防止できるよう、歯科医師を中心とした多職種による口腔ケアの連携体制の構築を図ります。</p> <p>○ 医療現場における認知症対応力を高めるため、一般病院勤務の医療従事者や看護職員を対象とした認知症対応力向上研修を継続実施し、認知症の人の個別性に合わせた対応ができる医療従事者の拡充を図ります。</p> <p>（地域での生活を支える介護サービスの構築）</p> <p>○ 認知症の人の住み慣れた地域での生活を支えるため、認知症対応型共同生活介護（認知症グループホーム）をはじめとした地域密着型介護サービスを、介護保険事業計画に基づき着実な整備を促進します。</p>

現状	課題	施策
<p>○ 認知症ケアに携わる方を対象に、認知症介護に関する各種研修を行っています（図表 4-22）。</p> <p>（地域での日常生活・家族への支援の強化）</p> <p>○ 認知症を正しく理解し、地域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーター数は、平成 29 年 3 月末現在で 131,155 人、地域活動のリーダー役として認知症サポーター養成講座の講師等を務める認知症キャラバン・メイト数は 1,544 人となっています（図表 4-23）。</p> <p>○ また、地域包括支援センターや岩手医科大学附属病院では、小中学生を対象に「孫世代のための認知症講座」を実施し、学童期からの認知症への理解をきっかけとした高齢者に優しい地域づくりの促進を図っています。</p> <p>○ 認知症に関する普及・啓発のためのシンポジウムの開催や、市町村が配置している認知症地域支援推進員への研修等を行い、認知症の人の生活を地域で支える取組を促進しています。</p> <p>○ 若年性認知症の人やその家族への支援を行うため、平成 29 年 4 月に基幹型認知症疾患医療センターに若年性認知症支援コーディネーターを配置し、若年性認知症の人やその家族などからの相談に対応しています。</p>	<p>（地域での日常生活・家族への支援の強化）</p> <p>○ 認知症の人を地域で見守り、支え合うためには、県民の認知症に関する正しい知識と理解をさらに広める必要があります。このため、市町村の認知症に関する相談支援体制、普及・啓発活動の充実を図るとともに、認知症サポーターの養成に一層努める必要があります。</p> <p>○ 認知症の人の家族の精神的・身体的負担を軽減するため認知症の人やその家族が地域の人や専門家と情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置に一層努める必要があります。</p> <p>○ 若年性認知症の特性に配慮した就労・社会参加支援を図るため、若年性認知症に関する正しい理解を促進する普及・啓発や支援ネットワークの構築を進めていく必要があります。</p>	<p>○ 特別養護老人ホーム等の入所、入居サービス及び訪問介護等の居宅サービスに従事する介護職員を対象に、認知症の人への介護対応力向上を図るため、各種研修を継続するとともに、内容の充実を図ります。</p> <p>○ 要介護（要支援）認定高齢者の約 6 割に認知症の症状が認められることから、認知症の人を地域で支えることに特に配慮した地域包括ケアシステムの構築を進めます。</p> <p>（地域での日常生活・家族への支援の強化）</p> <p>○ 認知症の人を見守り、支え合う地域づくりを進めるため、認知症サポーター養成講座や学校における認知症講座の開催などにより、県民の認知症に関する正しい知識と理解の普及を図ります。</p> <p>○ 認知症の人と家族が地域で安心して生活できるよう、相談機関、関係機関相互の連携の強化や、市町村における徘徊・見守り S O S ネットワークなどの支援体制の充実を図ります。</p> <p>○ 地域の実情に応じて、市町村の認知症地域支援推進員等が、認知症の人やその家族等が集う認知症カフェの設置等を進めます。 また、認知症の人に対する虐待の防止などの権利擁護、市民後見人の育成と活動支援などの取組を進めます。</p> <p>○ 認知症の人の家族からの悩みや介護に関する相談に対応するため、認知症介護の経験のある相談員が対応する電話相談などを実施します。</p> <p>○ 若年性認知症支援コーディネーターの周知を図り、若年性認知症に関する正しい理解を促進する普及・啓発や支援ネットワークづくりの取組を進めます。</p>

【求められる医療機能等】

○ 認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要な医療を提供していくためには、次のような医療機能等が求められます。

区 分	求められる医療機能等	医療機関等の例
早 期 発 見 、 診 断 ・ 治 療	・ 地域包括支援センター、認知症初期集中支援チームや介護支援専門員等と連携して、認知症の人の日常的な診療を行うこと ・ 認知症の可能性について判断でき、認知症を疑った場合、速やかに認知症疾患医療センター等の専門医療機関を紹介できること ・ 認知症対応力向上のための研修等に参加していること	・ 認知症のかかりつけ医となる診療所又は病院
	・ 医療相談室を配置し、専門医療相談に応じるとともに、医療相談室が中核となり地域包括支援センター等との連携に努めること ・ 鑑別診断及びそれに基づく初期対応を行うこと ・ 合併症及び周辺症状への急性期対応を行うこと ・ 地域の認知症医療の中核として、認知症の専門医療に係るかかりつけ医等への研修を積極的に実施すること ・ 認知症治療に関する情報発信を行うこと	・ 認知症疾患医療センター
	・ 必要な入院医療を行うとともに、認知症疾患医療センター、訪問看護事業所、地域包括支援センター、介護サービス事業所等と連携体制を有し、退院支援・地域連携クリティカルパスの活用等により、退院支援に努めていること ・ 退院支援部署を有すること	・ 入院医療機関（認知症の診療を行う専門医療機関等）
	・ 地域包括支援センター、認知症初期集中支援チームや介護支援専門員等と連携して、認知症の人の日常的な歯科診療を行うこと ・ 必要な歯科診療を行うとともに、認知症の人や家族、介護従事者等への口腔ケアの指導を行うこと ・ 認知症対応力向上のための研修等に参加していること	・ かかりつけ歯科医となる医療機関
	・ 地域包括支援センター、認知症初期集中支援チームや介護支援専門員等と連携して、認知症の人の日常的な薬学的管理を行うこと ・ 必要な薬学的管理を行うとともに、認知症の人や家族、介護従事者等への服薬管理の指導を行うこと ・ 認知症対応力向上のための研修等に参加していること	・ 薬局
療養支援 等	・ 認知症疾患医療センター等の専門医療機関と連携して、認知症の治療計画や介護サービス、緊急時の対応等が記載された認知症療養計画に基づき患者やその家族等に療養方針を説明し、療養支援を行うこと	・ 認知症のかかりつけ医となる診療所又は病院 ・ かかりつけ歯科医となる医療機関 ・ 薬局
地域での 生活支援	・ 認知症疾患医療センター、訪問看護事業所、地域包括支援センター、介護サービス事業所等との連携会議等に参加し、関係機関との連携を図ること ・ 上記の連携にあたっては、その推進役として認知症サポート医等が、認知症疾患医療センター等の専門医療機関や地域包括支援センター等の情報を把握し、かかりつけの医師からの相談を受けて助言等を行うなど、関係機関とのつなぎを行うこと	・ 認知症のかかりつけ医となる診療所又は病院
	・ 必要な歯科診療を行うとともに、認知症の人や家族、介護従事者等への口腔ケアの指導を行うこと	・ かかりつけ歯科医となる医療機関
	・ 認知症サポーターの養成等、認知症に関する正しい知識の普及及び地域での支援を行うこと	・ 介護保険施設
	・ 認知症グループホーム等による相談・支援活動の実施 ・ 若年性認知症の特性に配慮した支援	・ 地域包括支援センター ・ 若年性認知症支援コーディネーター

（取組に当たっての協働と役割分担）

医療機関、医 育機関、関係 団体等	（かかりつけ医） ・ 認知症対応力向上のための知識習得 ・ 認知症サポート医をはじめ、専門医療機関との連携強化 （認知症疾患医療センター・認知症サポート医） ・ かかりつけ医や介護事業所等に対する助言支援 ・ 地域包括支援センター等との連携 ・ 地域のかかりつけ医への研修、助言等 （歯科医療機関） ・ 認知症対応力向上のための知識習得・認知症の人に対する口腔ケアの充実・普及 （薬局） ・ 認知症対応力向上のための知識習得 ・ 認知症の人に対する薬学的管理への支援 （介護事業所） ・ 認知症の行動・心理症状等が原因で在宅生活が困難となった場合の対応 ・ 認知症対応力の向上	市町村	・ 認知症に関する正しい知識や理解に向けた普及・啓発 ・ 介護予防の充実（認知症介護予防推進運動プログラムの普及等） ・ 認知症の人や家族が地域で安心して生活できる環境の整備 ・ 地域包括ケアシステムの構築 ・ 認知症地域支援推進員、認知症初期集中支援チームの設置・運営
	・ 認知症に対する正しい理解 ・ 認知症サポーターとして、認知症の人や家族の地域での生活を支援 ・ 認知症キャラバン・メイトとして、職場や地域単位で認知症サポーターを養成		・ 認知症疾患医療センターの運営支援 ・ 認知症疾患医療センターと各圏域との連携促進 ・ 認知症サポート医の養成 ・ かかりつけ医、歯科医師、薬剤師、看護職員、一般病院勤務の医療従事者への認知症対応力向上研修の実施 ・ 認知症に関する正しい知識や理解に向けた普及・啓発 ・ 認知症キャラバン・メイトの養成 ・ 地域包括ケアシステムの構築支援 ・ 認知症ケアに携わる人材の育成 ・ 若年性認知症支援コーディネーターの配置